

平成 24 年度 シラバス	学年・期間・区分	2 年次 ・ 通年 ・ 必修
	対象学科・専攻	電気情報システム工学専攻
特別研究 (Advanced Graduation Research)	担当教員	電気情報システム工学専攻全教員
	教員室	
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	実験・実習 / —— / 10 単位	
週あたりの学習時間と回数	[授業 (750 分)] × 30 回	
教育形態／単位の種別／単位数		
週あたりの学習時間と回数		
<p>[本科目の目標] 電気電子工学・情報工学に関する研究題目について実験・研究を行い、その成果を学協会で発表するとともに、特別研究発表会で発表し、特別研究論文にまとめる。一連の研究過程を実際に経験し、諸問題を解決する能力や電気電子工学及び情報工学に関する技術者となるための能力を養う。これらを通じて以下の項目を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術者としての社会への貢献と責任</li> <li>2. 自主的に計画・立案し継続的に学習する能力</li> <li>3. 文献等(外国語文献を含む)を調査・読解する能力</li> <li>4. 論文内容を要約して報告するプレゼンテーション能力</li> <li>5. 研究成果を論文としてまとめ記述する能力</li> </ol>		
<p>[本科目の位置付け] 特別研究に関連する内容について学習する。学習題目により重点的に必要となる科目は異なるが、本科および専攻科の全授業科目が関連する。</p>		
<p>[学習上の留意点] 各研究題目は原則として 1 年次のものを継続して行う。担当教員の指示を待つのではなく、各自積極的に取り組み、特別研究を計画的に進める事。正課の時間外に行う事もあるので、実施報告書の作成が必要である。大学評価・学位授与機構へのレポート提出、小論文、学協会での発表等のスケジュールは各自確認しておく事。</p>		
[授業の内容]		
	研究テーマ / 研究分野	担当教員
	・ 静止画像符号化に関する研究	加治佐
	・ FPGA 素子を用いた学生実験用 MPU の開発 (計算機工学分野)	芝
	・ 画像処理による囲碁・将棋棋譜の自動生成システムの研究 (画像処理工学分野)	
	・ 組込みシステム用ファームウェアの研究 (計算機工学分野)	濱川
	・ 連想記憶の類似度とマスキングに関する研究	
	・ 生体磁気刺激に関する研究	玉利
	・ 生体電気インピーダンスに関する研究	
	・ 未知の優先順位に基づいたアドレス割当制御を実現する DHCP 拡張の提案	入江
	・ ヒューマンインタラクションに関する研究	新徳
	・ ネットワークの応用利用に関する研究	武田
	・ 燃料電池とスイッチングコンバータに関する	楠原
	・ 分野誘電泳動による細胞操作機能を組み込んだバイオ MEMS の開発	須田
	・ 電力変圧器用部分放電位置標定システム構築に係る検証データの照合評価	中村
	・ 固体表面近傍の粒子挙動に関するシミュレーション	今村
	・ 半側空間無視のリハビリテーションに関する研究	
	・ 部分放電発生特性に関する研究	
	・ 絶縁耐圧試験用電源に関する研究	
	・ センサレス制御ブラシレスモータに関する研究	逆瀬川
[教科書]		
[参考書・補助教材]		
<p>[成績評価の基準] 指導教員評価 (50%) + 特別研究論文評価 (20%) + プレゼンテーション評価 (30%)  ただし、前刷原稿の提出、特別研究論文の提出および研究発表の何れかが欠けた場合、成績評価は 60 点未満とする。また、専攻科在学中に各種学協会等が主催あるいは後援する学術講演会等において、特別研究に関する研究発表を必ず行う事とし、学外発表を行わない場合の成績評価は 60 点未満とする。ただし、本科における卒業研究指導教員と専攻科における特別研究指導教員が同じで、研究内容が類似である場合に限り、専攻科生が 5 年次に学協会発表を実施したものであれば、専攻科在学中における研究発表は免除できる。</p>		
<p>[専攻科課程の学習・教育目標との関連] 1-3, 2-2, 3-2, 3-3  [教育プログラムの学習・教育目標との関連] 1-3, 2-2, 3-2, 3-3  [JABEE との関連] (d)(2)b, (d)(2)c, (e), (f), (g), (h)</p>		